

花嫁を女優オーラで包む 揺れるブーケは進化し続けています!

KAORUKOさんの代表詞ともいえる、しなやかに揺れるブーケ。
今のスタイルにとり替えては、数々の変化がありました

1999年



桂山美さんのグランドコレクションで、グリーンネックレスを中央、花を飾るブーケを提案。その斬新なアイデアに、桂さんも感動。

2000年



研究と開発を重ね、ワイヤリングによってブーケを綺麗に飾らす技術を開発。透明感があり、手にする人がおのりおのり揺れる。

揺れるブーケができるまで



既成具合やあしらう場所によって、同じ花でも使うワイヤーの番号や長さは違ってきます。中央の主役花は太いワイヤーを使って固めに、先端の小花や葉ものは細いワイヤーではかなやかに揺らして、KAORUKOさんは揺れるような手さばきで花を組み合わせてます。

て、
2011年

くのは、それぞれの
喜に選りあうよう
る飾り。そしてブー
ドレスが透けて見
どの軽やかな。ドレ
を飾る美しく揺
れるブーケです。

今こそ、各界の著名人や有名ブランドがこぞブーケや装花を依頼し、パリのコレに上流階級と海外に注目の場を占めているKAORUKOさん。でも、若い頃はごく普通の会社員でした。このまま結婚して子どもを産み、平凡な毎日を送ることも思っていたの。それを弱めに察されたのが「花」でした。山あり谷ありの日々を乗り越えられた理由

KAORUKOさんは、当時の日本にはなかった、花を含めて装式全般をプロデュースするコーディネーターになる、という夢をずっと持ち続けていた。そして、あきらめなければ夢は必ずかなう、という強い信念も、それがあつた。会社員の傍ら、花のレッスンを上ドレスショップの研修で随分時間。夫の産後生活にも耐えられず、やむを得ず、という生活に苦しみを感じたけれど、「いつかは必ず」と信じ続けました。だからこそ、なのでしょう。移り住んだ横浜で桂山美さんと出会い、運命の扉が開かれたのだ。もちろん、その後も決して順風満帆ではありませんでした。仕事で赤字を出して家計を切り崩すはめになったり、女嫁さんの結婚式で作ったブーケをすりかえられたり、仕事と家庭のバランスが崩れ、旦那が不登校になったり、「でもね、旦那がききもあきらまなくて、その先をコツコツ続けること、諦めは必ず好転する。技が来るの。私

※次号参考 (12/7発売) もKAORUKOさん「花」雑誌、雑誌が読めます。お楽しみに。

38歳

野門五郎・三井ゆりさんの
挙式・披露宴の花を担当

この年結婚した野門五郎・三井ゆりさん夫妻の結婚式のフラワーコーディネートを手掛ける。有名な挙式の装花やブーケの依頼も増加。豪華客船や有名ホテルのフラワープロデュースなども担当。

39歳

日本人初!
パリの花を担当

日本人のフラワーデザイナーとして初めて、パリのオートクチュールコレクションのフラワーコーディネートを担当。日本の装花、ブーケをブーケに使用 (写真)。トウシューズなどで会場を飛び回る。



41歳

揺れるブーケが完成に近づく

専門学校にKAORUKOメソッドの揺れるブーケが導入される (揺れるブーケについては左のコーナーを参照)。認定制度もでき、揺れるブーケがほぼ現在のスタイルに近づく。揺れるブーケの特許も申請。

信じれば
必ず夢はかなう。
運命の女神が
そう私に
教えてくれました

KAORUKO ヒストリー

20歳

フラワーアレンジメントと出会う

親大を卒業し、大手企業に就職。同業入社の夫とすぐに結婚が決まる。女性誌でweddingブーケアレンジメントの存在を知り、「これだ!」と感動。その後、憧れつつ完全に離業し、仕事を続けながらレッスンに通う。

23歳

自作のブーケで
挙式

先生の指導のもと、自作のブーケ、ヘッドドレスで挙式。ブライダルの花の仕事をしたくてレッスンのため込み、土日はドレスショップでも模様を積んで知識を蓄積。

25歳

夫の転勤で鹿児島へ
専業主婦生活に

得意の装具を出産。花とドレスのサロンを必須するも、夫の転勤で収入もいよいよ鹿児島へ。奮闘するが、「これも運命」と子育てに専念し、ウエディングに関する本をたくさん読む。

32歳

オリジナル
ウエディングが評判に

会員制スポーツクラブでの挙式で新郎新婦の仕事のビルと香水を花で装飾 (右)。独創性が評判を呼び、



33歳

横浜三越の紹介で
桂山美さんと出会う

横浜三越でアレンジ教室を始める。そのブライダルフェアで、桂山美さん (写真右) のドレスに合わせたブーケを制作。その後2年間、横浜の桂山さんのブライダルショーで、フラワープロデュースを手掛ける。



桂山美さんのショーで
光るブーケを提案

桂山美さんの年、ミレニウム・コレクションのテーマに掲げた「宇宙」「未来」を表現するために、光る小物を取り入れた輝きのブーケを提案。「花時間」を始め、雑誌などにも発表する (写真)。頭角を現してまたKAORUKOさんにパッシングも。



36歳

桂山美さん
コレクションを担当

桂山美さんグランドコレクションで全ブーケのデザインを担当。友成子さんのブーケ (写真) を手掛けた。揺れるブーケの前身も誕生。本格的に装花の育成にも乗り出す。

35歳

ブライダルの仕事が殺到

桂山美さんのウエディングフラワーコンクールで入賞 (写真)。横浜で指婚りの結婚式と契約し、年間2000組もの挙式をプロデュース。桂山美さんのショーが盛況で、有名女優の挙式用ブーケを提案。海外での撮影や花嫁飾りも増加に。一方で、多忙を極め、夫が不登校に。



KAORUKO流 ウエディングの 「花」物語

～主婦からブライダルフラワー
プロデューサーへの転身～

青い花嫁に、結婚、子育てを
そう思っていたはずの20代の女性が
今、ウエディング業界の頂点に
これまでの軌跡をたどりました。



KAORUKOさんに見守られ、そのブーケを手にした花嫁は、自然に落ちた笑顔のように輝きます。



KAORUKO
ブライダルフラワープロデューサーの先駆者として、通算2万組のオリジナルウエディングを手掛ける。多くの女優や著名人の花を提案し、日本人で初めてパリのコレの花、フラワーコーディネートを担当。2010年の上海万博にも日本を代表するアーティストとして参加。